

<全体分析>

試験時間 90分 (文学部 105分)

<p>解答形式 記述式 (一部マーク式)</p> <p>分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)</p> <p>出題の特徴や昨年との変更点 従来通りの出題形式である。試験時間から考えると、記述量は非常に多い。</p> <p>その他トピックス なし。</p>
--

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I (A)	英文解釈 (57words)	海と生	英文の意味を把握すること自体はかなり容易だろう。しかし下線部をこなれた日本語に落とし込むには熟考を要する。これにどれほどこだわるかで解答時間も変わってこよう。状況を冷静に判断することが肝要ということになる。この「的確な日本語訳が困難」という事態はここ数年の大問 I では常態化している印象がある。ポイントとしては、強調文の把握、 the life's greatest terror および [the+形容詞] の的確な訳出が挙げられる。	やや易
I (B)	英文解釈 (98 words / 下線部 57 words)	芸術という生業	阪大としては標準的レベルの英文である。下線部第 1 文の why they do what they do は直訳では要領を得ない訳文になるので文脈を把握したうえでの確に意識する必要がある。豊富な和訳経験が求められるところだ。第 2 文の aspiring は多くの受験生にとって未知語だろうが、これも文脈全体を慎重に考慮に入れれば語義の推理は十分可能だろう。第 2 文の one が an artist の代用表現だと判断することもポイントの一つ。	標準
II	読解総合 (801words)	近隣銀河からの影響を受け変容していく天の川銀河	天文学の背景知識に精通していない受験生にはやや読みにくい英文であったと思われる。設問(1)は従来通り語句レベルのパラフレーズ問題。知識のみで解けるものも多いが、(ii)は文脈からの類推も難しい。設問(2)は、該当部分のみならずパラグラフ全体の理解がカギ。設問(3)は their の指すものを段階的に遡って把握する必要があり、こちらも英文の流れを把握できているかどうかで答案の質は大きく変わる。設問(4)は直後に該当する語句があり、抜き出すのは比較的容易。 culprit は「犯人」という意味。設問(5)は、いて座銀河が現在の天の川銀河の形成に大きな影響を及ぼした、という趣旨が理解できていることが必要。どこまで踏み込んで書くべきか、受験生にはやや悩ましかったかもしれない。設問(6)は本文全体の趣旨を問う問題。この種の問題が阪大の読解問題で定着しつつある。	やや難

III	自由英作文	大学での理想の学び	どうやら 80 語程度という語数指定は定着したと判断してよいだろう。「大学において自分が理想とする学びとはどういうものか」という問いだが、自由英作文のテーマとしてはやや漠然とした出題という印象。どう「具体例」を提示するか、抽象的記述と具体的記述をどうバランスさせるかが答案の質を左右するだろう。またこの設問の場合、主題と関係のない内容を書いていないかどうか、抜け目なくチェックすることが必要だろう。	標準
IV(A)	英作文	「哲学すること」	全体としては標準的難度の設問。英語学習の過程で何度も目にするであろう定型表現で処理できる部分が各所にあり、反復を重視した正しい学習が行えていたかどうかで差がついたと思われる。ただ「疑問が広がる」と『『そもそも』問題』は、文脈全体を的確に解釈して慎重に意味を読み出す作業が必要だろう。	標準
IV (B)(イ)	英作文	人をモデルにする小説を書くには	これも難度は標準的。(A)と同様、各所に定型表現で処理できるパートがある。下線部第1文の「フィクションだから何でも許される」は、直訳では漠然とした意味しか伝わらないので、文脈をヒントに適切な情報の追加が必要。下線部第3文の「縛り」も文脈から「制約」という意味であることを読み出さなければならない。とはいえ、いずれも比較的容易な作業と言えよう。	標準
IV (B)(ロ)	英作文	マスメディアと一般大衆	「…するのが人間である以上」というパートは、後続する文脈を考慮すれば「理由」の表現だと判断できよう。「全て正しいとは限らない」では部分否定の表現を的確に用いることがポイントとなる。「…を考えても」は文脈より「…を考慮すると」だと判断できれば、「considering ...」や「given ...」といった平易な表現で訳出できる。やはり重要表現をどれだけしっかり定着させてきたかで差がつくだろう。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

どの設問にも、英語であれ日本語であれ、文章が伝えようとしているメッセージを正確に探り出す能力を試そうとする姿勢が貫かれている。同時にまた、正しい英語学習の過程で身につくであろう知的教養の有無も試していると考えられる。これらの要求に応えるには、学習した素材を何度も復習し、自分自身の中にある英語理解を「深い」ものにしていく必要がある。「手っ取り早く設問に答える方法」を追いかけようでは、求められている資質は獲得できない。むしろ、「時間のかかる」学習こそが、大阪大学合格への一番の近道であることを実感してもらいたい。